



## バージニアぶらり旅

ワシントンDCがアメリカの首都であることは、皆さんもご存知だと思いますが、米国特許商標庁（以下「USPTO」）の本部があるバージニア州との距離については、ピンと来ない方が大半だと思います。私も実際にこの地域に住んでみるまでは、ワシントンDCとバージニア州がこんなに近いとは思っていませんでした。ワシントンDCは非常に小さく、メトロに乗ればほんの数駅でバージニア州やメリーランド州に入ってしまうため、ワシントンDCと、隣接するバージニア州、メリーランド州の一部はワシントン・メトロポリタン・エリアと呼ばれています。また近年では、DC、メリーランド、バージニアの頭文字を取って、DMVという愛称で呼ばれることも多くなっています。

今回は、DMV在住という地の利を生かし、「DCメトロで行くバージニア州アレキサンドリア／USPTO・全米発明家殿堂ミュージアムぶらり旅（←「旅」というよりも「移動」ぐらいの距離ですが）」をしてみました。今後、出張や観光でワシントンDCにいらっしゃる方々の参考になれば幸いです。

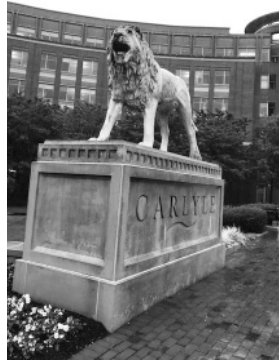
USPTOの本部は、バージニア州アレキサンドリアにあります。なお、2005年まで本部があったバージニア州アーリントンのクリスタル・シティは、アマゾンが第二本社を作ることによって話題になったエリアです。現本部の最寄駅は、キング・ストリート／オールド・タウン。DCの中心部からはブルーラインまたはイエローラインで約30分ほどの距離です。駅前には、大型ホテルが2軒（ヒルトンとエンバシー・スイーツ）。この地域はここ10年

ほどで開発が進んでおり、駅から5分ほど歩くと、イートイン・コーナーも完備したホールフーズ・マーケット（2017年にアマゾンが買収した高級志向のスーパーマーケット）があり、さらに歩いて10分ほど進むと、大型シネコン（15作品が上映されています）もあるため、「車なしでは遊べない」という、従来のアメリカ郊外のイメージからは脱却している感があります。近年のアメリカにおける「ウォーカビリティ（歩きやすさ）」重視のトレンドを反映しているエリアともいえるでしょう。

USPTOは、キング・ストリートから徒歩で約10分の場所にあります。駅前のダイアゴナル・ロード（坂道）を上り、ダラニー・ストリートにぶつかったら左折する、という非常にシンプルな道順です。なお、ダラニー・ストリートには、シンガポール（マーライオン公園）、ロンドン（トラファルガー広場）、銀座（三越）と共通点があります。そう、なぜかライオン像がそびえ立っているのです。このライオン像が見えたら、ほんの1分ほどでUSPTOの敷地内に入ります。USPTO名義の建物は5軒、さらには大型駐車場が2カ所と、同庁の景気の良さを肌で感じられる作りになっています。一番奥にあるジェームズ・マディソン・ビルディングは、講堂やカフェテリアを擁したメインのビルで、一歩足を踏み入れると、登録証を模した大きな旗と米国旗が目に見え込んできます。今回は審査官との対面インタビューではなく、ぶらり旅でやって来ましてので、同ビル内に併設されている全米発明家殿堂のミュージアムに入って



最寄り駅



マーライオン (?)



ミュージアム



景気よさを  
感じさせるビル内部

みました。

全米発明家殿堂は、1973年に設立された非営利団体で、「人間、社会、経済の進歩を可能にする大きな技術的進歩を担った発明家を讃える」ことを目的としています。ミュージアムでまず目につくのは、2014年に作られた Gallery of Icons (アイコン・ギャラリー) です。殿堂入りしている562人(本稿執筆時点)の名前が、六角形のプレートに刻まれています。また、プレートの前に設置されているインタラクティブなスクリーンを使えば、発明者を検索し、各人の主な発明について知ることができます。

このギャラリーで私が特に嬉しかったのは、浅川智恵子氏が写真入りの大きなパネルで紹介されていたことです。浅川氏は、視覚障害者向けに音声で読み上げる世界初の音声ブラウザソフトウェア「Home Page Reader (HPR)」の開発を評価され、今年(2019年度)に殿堂入りを果たしました。日本人としては、遠藤章氏(資質降下薬スタチンの発見と開発)、中村修二氏(青色LEDの開発)につぐ3人目の快挙です。

その他にも、ナイキやマイクロソフト等、世界的企業の創立から現在までの軌跡を商品とともに紹介するコーナーや、携帯電話や車の発達の歴史などが、関連特許とともに紹介

されています。また、子ども向けのインタラクティブなセクションもあり、発明者をスーパーヒーロー集団に見立てたアメコミ風のイラスト・パネルが飾られていました。

USPTOを訪問したら、お土産屋さんもぜひ覗いてみてください。PATENT PENDING (特許出願中)のロゴが入ったTシャツや、アインシュタインの数式が入ったマグカップ、ハリー・ポッターのコーディング・キット等、ユニークな商品が並んでいます。歴代大統領の絵が入ったチョコやクッキーとは一線を画す、気の利いたDC土産になると思います。

### 筆者紹介



#### 加藤奈津子 (かとうなつこ)

世界各地に展開するUnited GIPsの米国グループ事務所 United IP Counselors, LLC代表。米国パテント・エージェント。京都大学法学部卒業。ワシントンDCのジョージワシントン大学大学院にて米国知的財産法の修士号を取得するとともに、パテント・エージェント受験資格を得るに十分な技術系の単位を米国の大学にて取得。趣味はスポーツ観戦。ワシントンDC近郊在住。